

令和 4 年度 第 2 回沖縄県がん診療連携協議会 小児・AYA 部会 議事要旨

日 時：令和 4 年 8 月 26 日（金） 15：00～17：00

場 所：WEB 会議

構 成 員：17 名

出 席 者：9 名

浜田聡(琉大病院小児科)、銘苅桂子(琉大病院産婦人科)、城間敏生(沖縄県教育庁保健体育課)、當山美奈子(琉大病院看護部)、森島聡子(琉大病院第二内科)、新屋敷誠(森川特別支援学校)、佐久川夏実(南部医療センター・こども医療センターCLL)、金城敦子(がんの子どもを守る会 沖縄支部)、増田昌人(琉大病院がんセンター)

欠 席：7 名

當銘保則(琉大病院整形外科)、伊良波史朗(南部医療センター・こども医療センターCLL)、比嘉猛(南部医療センター・こども医療センター小児科)、大城一郁(南部医療センター・こども医療センター血液・腫瘍内科)、崎間恒哉(沖縄県教育庁県立学校教育課)、外間早紀子(沖縄県保健医療部健康長寿課)、朝倉義崇(中部病院血液・腫瘍内科)、

陪 席 者：2 名

有賀 拓郎(琉大病院 診療情報管理センター)

石川 千穂(琉大病院 がんセンター事務)

【報告事項】

1. 令和 4 年度 第 1 回小児・AYA 部会 議事要旨(6 月 2 日)

浜田委員より、資料 1 に基づき説明があった。

2. 小児がん長期フォローアップ外来に重点を置いた会議(7 月 8 日)

浜田委員より、資料 2 に基づき説明があった。

3. 小児・AYA 部会 委員一覧

資料 3 の通り承認された。

4. 「妊孕性温存療法」と「がん治療後の生殖医療」WG 委員一覧

資料 4 の通り承認された。がん治療の医師が資料とおり加わった。

6. 沖縄県がん患者等妊よう性温存療法研究促進事業助成実績

資料 5 のとおり、助成実績件数が報告された。

7. 次期指定要件について

資料 6 のとおり、小児・AYA 分野の変更点等が報告された。がん拠点病院指定要件に記載の

ある内容については協議会で協議し、県全体で取り組む。新しく決まった事項については、主には以下のとおり。

①がん治療後の生殖補助医療の義務化

②AYA に対する支援チームの構成

③指定要件内容について、県全体で対応できるよう協議会で検討し実行に移す

【協議事項】

1. ロジックモデルと今年度の部会活動計画について

時間の都合で次回審議となった。

2. 小児がん長期フォローアップ外来について

資料 1 および 2 に基づき、前回の会議で共有された課題や提案等について振り返りがあった。移行について、現在、血液関係は血液内科、骨肉腫は整形外科の方で対応されているとのことだった。陪席の有賀先生から、例えば、完治していても 20 歳になったら成人の当該診療科の先生に紹介する等、コンセンサスをこの部会から提言したらどうか、一回の診察で移行とせず、例えば 20 歳から 25 歳を移行期とする等、病院としての覚え書きを作成するのはどうかという提案があった。また、紹介する科は限定されていると思うので、当該科の医師が了承してくれれば解決しないか、との提案を受け、浜田委員より、チューマボードのような場所を作って関連科へ繋げるのが良いかもしれないとの発言があった。

3. 妊孕性温存療法について

5. がん治療後の生殖補助医療について

資料 8-(1)のとおり、琉大病院の妊孕性温存療法の実績が報告された。資料 8-(2)では、実際に凍結できた症例件数や紹介があった施設について報告された。資料 8-(3)は、妊孕性温存療法と温存と生殖補助医療への県助成と琉大の費用概算について説明された。こちらの広報については、事務局から県内のがん治療施設へ配布される。

4. がん治療施設について

日本がん・生殖医療学会 HP 中の地域連携ページ（沖縄県）の「がん治療施設」欄に掲載する施設について、審議された。拠点病院の 6 施設に加え、県のホームページに掲載されているがん治療を行う施設(資料 P20～参照)に掲載することが承認されたが、その後、事務局内で再検討され、銘苅委員が講師を務める妊孕性温存療法研修会を修了した施設を順次掲載することとなった。

6. 小児がんの診療体制について

資料 10 に基づき、小児がんの診療体制について報告された。増田委員より、この内容を沖縄県がん診療連携協議会 HP に掲載してもよいか確認があり、浜田委員より、掲載前に各施設、各科担当者に確認が必要との返答があった。

7. AYA 世代のがんの診療体制について

次回以降、審議される。

8. アピアランスケアについて

増田委員より、10年ほど前から資生堂とタイアップして、院内や宮古、八重山等でアピアランスケアの体験や講習を行ってきている。今後は全ての拠点病院が行っていかないとけない項目になっているので各部会でアナウンスを行う、との説明があった。

9. 就学支援について

10. 就労支援について

資料 11 に基づき、新屋敷委員から、特別支援学校等で行っている、就学支援と就労支援の内容について説明があった。就労支援については、在籍している 2、3 年生の進路・就職決定のための対応で手一杯になり、学校だけでは卒業生への追支援が十分でないことが課題とのこと。また、中学校から高校へ進学しなかった理由や退学する理由の実数について、県と協力して把握し、ケアの方法を模索してフォローアップしていく必要があるのではないか、との提案があった。また、中学校から高校へ進学しなかった理由や退学する理由の実数については、今後の調査で県教委が把握する工夫の必要性があるかもしれない。県教委での調査が行われ、本校や県内の特別支援学校で支援・協力すべき事案があれば、県と協力してケアの方法を模索してフォローアップしていく必要があるのではないか、との提案があった。

11. インターネットの環境整備について

増田委員より、琉大の状況について説明があった。各病棟に **ipad** とポケット **Wi-Fi** を配置して、がん相談やピアサポートをできるように計画している。試運転は完了しているので、なるべく早い時期に運用開始したい。琉大で行っている **WEB** でのゆんたく会についても、他の 5 施設でもなるべく行ってもらえるよう、働きかけをしているとのことだった。浜田委員から **ipad** の利用範囲について確認があり、増田委員から、病棟から動けない患者向けで、①診療、②セカンドオピニオン、③患者サロン、④がん相談、⑤ピアサポート、が想定されているとの回答だった。

12. AYA 世代の支援チームについて

次回以降協議される。

13. 次回開催日程について(12月開催予定)

後日、事務局より候補日を挙げて、メールでアンケートを行う。